

令和5年度 京都市総合教育会議

**一人一人の先生が輝ける職場づくり  
～教員の担い手確保に向けて～**

令和5年11月7日（火）

## 一人一人の先生が輝ける職場づくり ～教員の担い手確保に向けて～

- 1 これまでの教育改革の成果
- 2 子どもたちの状況
- 3 学校現場における働き方改革
- 4 教員確保に向けた取組
- 5 教員の魅力、働きがい

⇒ 「一人一人の先生が輝ける職場づくり」について、意見交換

# 1 これまでの教育改革の成果

## (1) 全国学力・学習状況調査で好成績！

小学校で3年連続指定都市1位（都道府県比/2位）

中学校もトップクラス（R4：8位→R5：7位/都道府県比5位）

→本市は、小・中学校での私学への進学割合が高い（約2割）状況の中、先生方が教育実践を積重ね、保護者・地域の参画による取組の結果

## (2) 市独自予算による少人数学級を実施（国より先行して導入）！

小学1・2年生の35人学級（小1：H15～、小2：H16～）

中学3年の30人学級（H19～）

→国の40年ぶりの法改正につなげ、小学校35人学級の法制化が実現  
(R3～R7まで順次)

## 1 これまでの教育改革の成果

### (3) 京都の市民力、地域力、文化力を生かした学校教育を推進！

→学校運営協議会の全校設置（全国トップレベル）や  
年間延べ約3万人のボランティア、約2,000人の学生ボランティアなど、  
地域・大学や保護者の皆様との連携を充実

### (4) 京都ならではの、小・中・高一貫した伝統文化体験を実施！

→茶道（小・高）・華道（中）体験を、全ての児童生徒が経験

### (5) 京都の取組が新学習指導要領の中核理念に！

→「社会に開かれた教育課程」等は、本市の「開かれた学校づくり」が  
モデル。高校での「探究」は、堀川高校での取組がモデル。

### (6) GIGAスクール構想により一人一台端末を整備

→ICT機器の日常的な活用や子どもの主体的な活用を通じて、  
「個別最適な学び」「協働的な学び」を日々実践

# 1 これまでの教育改革の成果

## (7) 全国をリードする学校改革！

① 地元主導の学校統合を推進（小・中88校→25校、幼11園→3園）

② 高校教育改革（H11年の堀川改革がスタート。

社会の要請に応え、生徒・保護者から選ばれる学校に）

→困りを抱える生徒に寄り添う「京都奏和高校」（R3.4）

→新しい枠組み「その他普通教育を施す学科」を開設した「開建高校」  
京都駅東部へ市立芸大と共に移転した「美術工芸高校」（R5.4）

③ 総合育成支援教育の充実

→LD等通級指導教室を指定都市平均の3倍設置

→市独自で看護師配置（H24：支19名、小3名→R5：支27名、小・中26名）を充実

→令和3年度から、指定都市初、医療的ケア(自立活動)担当教員を採用（計4名）

→平成16年度に、従来の障害種別から総合性・地域制に改編、  
高等部職業学科も開設。コロナ禍においても就職率8割を達成。

# 1 これまでの教育改革の成果

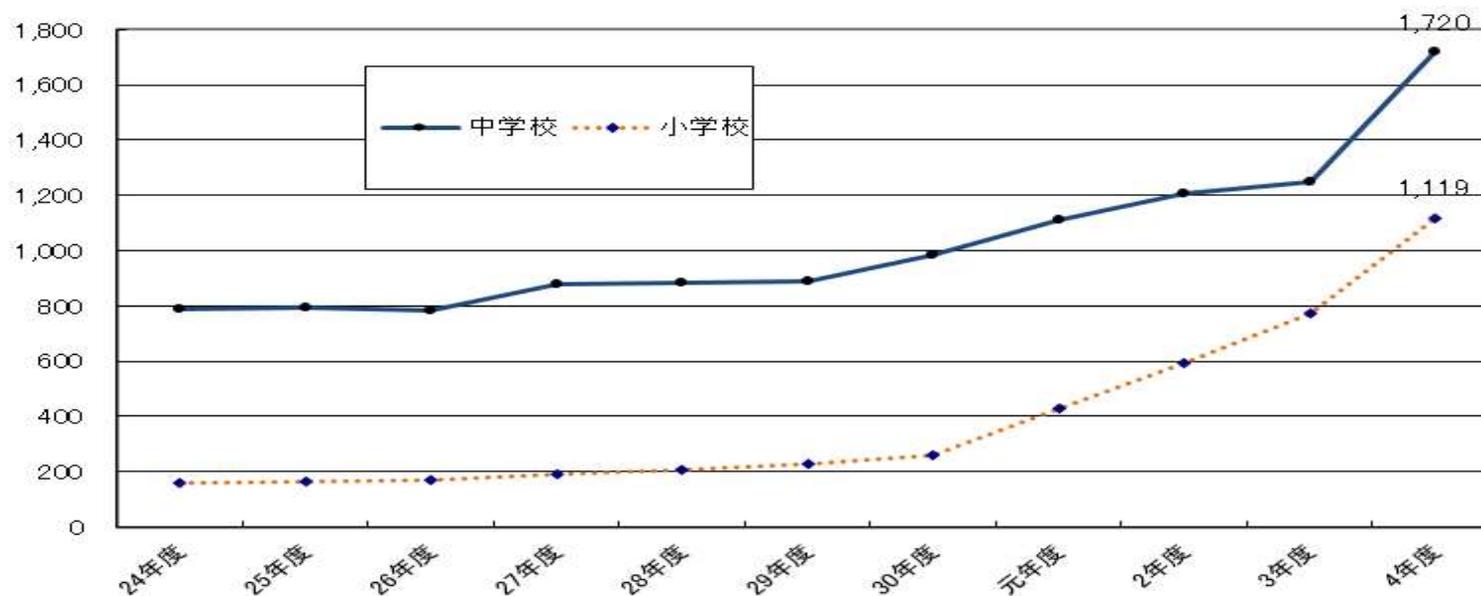
## ④不登校の子どもたちへの支援を推進

- 全市立学校にスクールカウンセラー、  
全中学校区にスクールソーシャルワーカーを配置
- 全市5か所に教育支援センター「ふれあいの杜」学習室を設置
- 全国の公立学校に14校しかない、不登校を経験した子どものための中学校（学びの多様化学校）について、全国に先駆け2校設置（「洛風中学校」「洛友中学校（昼間部）」）
- 全国初の専門機関として、京都市教育相談総合センター（こども相談センターパトナ）を設置し、50名を超えるカウンセラー等を配置

## 2 子どもたちの状況

### (1) 不登校児童生徒数の推移（本市）

		H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	不登校児童数	157	164	168	192	206	230	258	427	593	771	1,119
	在籍児童比	0.2%	0.3%	0.3%	0.3%	0.3%	0.4%	0.4%	0.7%	1.0%	1.3%	1.9%
中学校	不登校児童数	786	795	785	880	882	889	985	1,110	1,204	1,251	1,720
	在籍児童比	2.5%	2.6%	2.6%	2.9%	3.0%	3.1%	3.5%	4.0%	4.3%	4.5%	6.3%



（増加の背景）

- ・ 登校できない児童生徒の休養の必要性が認められ、学習機会の保障が義務付けられた教育機会確保法の趣旨が浸透した側面
- ・ 長期間継続したコロナ禍による生活習慣が乱れやすい状況が続いた側面

等が考えられる。

## 2 子どもたちの状況

### (2) 普通学級において支援を必要とする児童生徒数・比率（本市）

普通学級における支援を必要とする児童生徒数※						
年度	H24		R1	R2	R3	R4
小学校	4,101人 (6.3%)	…	6,717人 (11.0%)	6,790人 (11.2%)	7,145人 (12.0%)	7,106人 (12.1%)
中学校	1,540人 (5.0%)	…	2,216人 (8.0%)	2,266人 (8.2%)	2,603人 (9.4%)	2,602人 (9.5%)

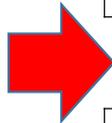
※ 教育委員会が実施するアンケート「総合育成支援教育の取り組み状況について」における『LD等の発達障害によると思われる学習面や行動面で特徴を感じる子どもの数』から計上。普通学級担任が子どもの見取りを行う中で、特徴を感じる子どもについては、診断の有無にかかわらず校内委員会で共有され、支援内容等が検討されている。

## 2 子どもたちの状況

(3) 35人(1クラス)あたりにして、10年前と比べると…

	H24			R4			
小学校	(1) 不登校	157人	0.2%	0.1人	1,119人	1.9%	0.7人
	(2) 支援が必要	4,101人	6.3%	2.2人	7,106人	12.1%	4.2人
	<b>計</b>			<b>2.3人</b>			<b>4.9人</b>
中学校	(1) 不登校	786人	2.5%	0.9人	1,720人	6.3%	2.2人
	(2) 支援が必要	1,540人	5.0%	1.8人	2,602人	9.5%	3.3人
	<b>計</b>			<b>2.7人</b>			<b>5.5人</b>

35人学級  
1学級当たりの  
人数



学校教育現場では、特別支援教育を受ける児童生徒や不登校児童生徒数の増加だけでなく、外国人児童生徒の増加など、子どもたちの多様化とともに、貧困やいじめの重大事案の増加等、課題が複雑化している。

### 3 学校現場における働き方改革

#### (1) 京都市『学校・幼稚園における働き方改革』方針の達成状況

##### 【数値目標①】

超過勤務の月45時間以内の達成（令和6年度末）

- ・月平均45時間以下の教員の割合  
(全校種合計・管理職除く・常勤講師含む)

R1	R2	R3	R4
55.2%	71.5%	65.9%	69.3%

##### 【数値目標②】

月80時間超えの教員を毎年度「ゼロ」

- ・年間を通じて月80時間超えが「ゼロ」の教員の割合  
(全校種合計・管理職除く・常勤講師含む)

R1	R2	R3	R4
79.4%	84.8%	85.0%	85.8%

##### 【数値目標③】

年休や男性の育休取得等の  
数値目標の達成

- ・年次休暇  
(目標16日以上)

R1	R2	R3	R4	目前
13.6日	12.6日	14.9日	15.7日	

- ・男性育休取得率  
(目標15%以上)

R1	R2	R3	R4	達成
4.8%	8.1%	12.2%	17.2%	

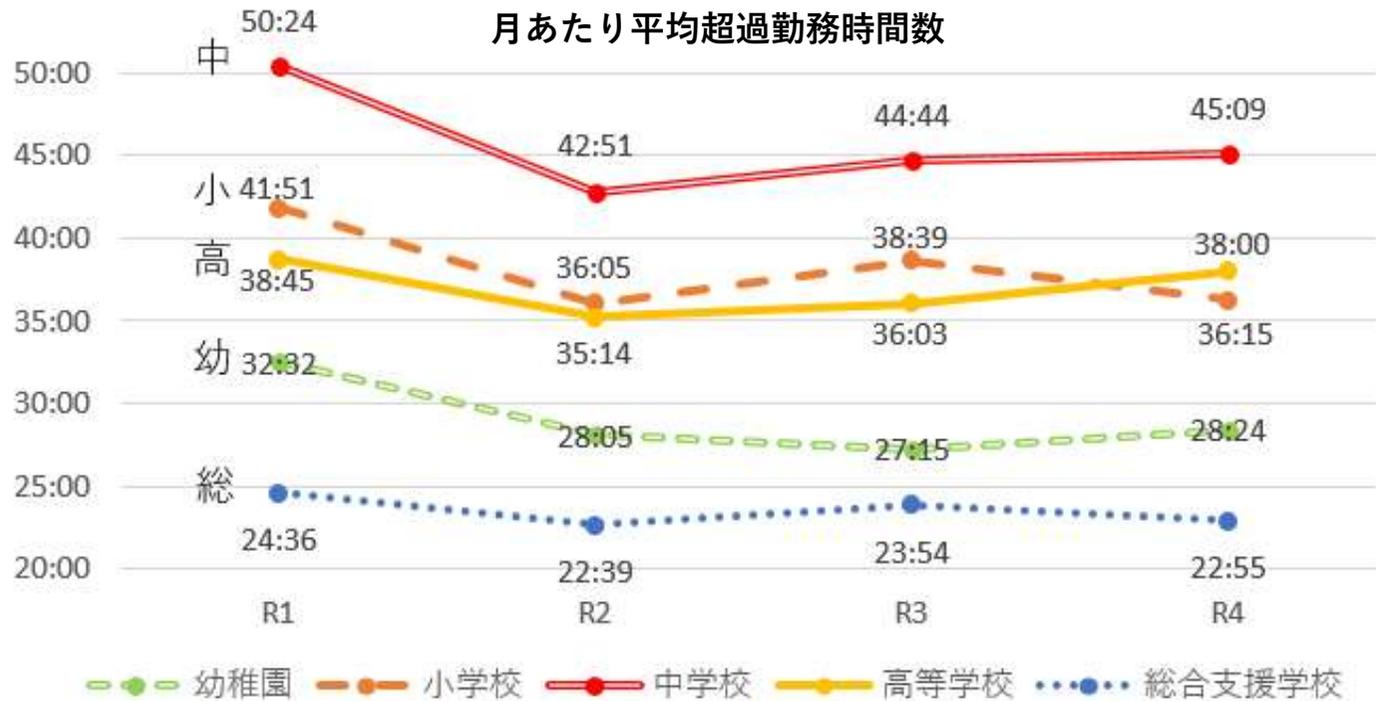
- ・出産補助休務等  
(目標8日間以上)

R1	R2	R3	R4
1.5日 (3.4%)	2.5日 (8.6%)	1.9日 (4.5%)	2.8日 (10.1%)

※( )内は8日間以上  
取得した割合

### 3 学校現場における働き方改革

#### (2) 学校・幼稚園の超過勤務の状況 (令和元年度～令和4年度 教育職員 (管理職除く))



#### ○令和4年度の状況

幼稚園や、部活動等の活動が戻りつつある中学校・高校では令和3年度より増加したものの、小学校、総合支援学校では減少。

**全校種平均で前年度を1時間4分下回った。**

(全校種平均)

R3 38:52

R4 37:48

(▲1:04)

元年度との比較では、全校種で時間数が減少。

【参考】文部科学省実施 教員勤務実態調査 (令和4年度) の結果 (速報値) と本市の状況

小学校	京都市 ※2	国 ※1	中学校	京都市 ※2	国 ※1
45時間超 ※3	41.0%	64.5%	45時間超 ※3	56.5%	77.1%
80時間超	1.2%	14.2%	80時間超	13.1%	36.6%

※1 文科省調査は10・11月の1週間当たりの総在校等時間から算出した割合。

※2 京都市の数字は10・11月実績から算出。

※3 45時間超には80時間超を含む。

## 3 学校現場における働き方改革

### (3) 推進施策

#### ① 「子育てしながら働く」環境の充実

全ての教職員が、安心して出産し、楽しく子育てができる環境の充実に努めている。

- 出産前** ・ 不妊治療休務を新設（R2年度～）。
- ・ 産前休暇の取得に先立った代理講師の配置による円滑な引継の支援（R2年度～）
- 育休終了時** ・ 育児休業復帰予定者への研修をオンラインで実施し、復帰時の不安を軽減。
- ・ 子が小学校就学始期に達するまで、勤務時間を短縮できる制度（育児短時間勤務）を実施。週19時間25分～週24時間35分以内で4種類あり、希望の時間を選択。
- 子育て中** 形態に応じ、非常勤講師等を配置。



#### ② 中学校休日部活動の地域移行

国においてまとめられた「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」（令和4年12月）を踏まえ、令和5年度から7年度を「改革推進期間」と位置付け、国の実証事業を拡充し、成果と課題を検証しながら、休日部活動の地域移行の取組を推進。

##### 【令和5年度の取組状況】

##### ・民間事業者に委託して実践

実施校数：7校9部活動

委託先：リーフラス株式会社

取組内容：休日の部活動の地域移行に関する管理運営業務委託

##### ・大学と連携した実践

実施校数：9校18部活動

取組内容：大阪成蹊大学、びわこ成蹊スポーツ大学と連携し、専門的指導ができる学生を顧問の補助として派遣



## 3 学校現場における働き方改革

1学級当たりの児童生徒数は政令指定都市の中でも上位（R4）  
小：28.2人、中：31.6人

### ③ 人的措置

- ・ 小学校での専科指導のための非常勤講師配置や中学校3年生の30人学級実施など、きめ細かな指導体制の充実
- ・ 校務支援員の全校園への継続配置(255校園)
- ・ 産休補充講師の先行加配（R5配置率約97%） など

本市独自予算を活用し、全校園へ継続配置

R2から本市独自に実施 R5から全国的な制度に

### ④ ICTを活用した更なる校務効率化

- ・ 採点補助ソフトの活用促進
- ・ 連絡配信や欠席連絡等の機能を備えた保護者連絡ツール「スクリレ」の導入
- ・ 多様な働き方を支えるICT環境の研究 など

### ⑤ 学校園と教育委員会が共に考える「働き方改革」

- ・ 電話対応終了時刻の設定（小学校：18時30分 中学校：19時）
- ・ 校長会と連携した取組  
小学校：教員向けアンケートの実施、結果分析及び今後の取組の検討  
中学校：生徒の登下校時刻を教員の勤務時間内に設定（R6までに）
- ・ 「PTAとしての『働き方改革』メッセージ」「学校・幼稚園の働き方改革推進宣言」の発信 など

### 3 学校現場における働き方改革

先生への感謝を込めて ～10月5日「教師の日」に～

#### (参考) 10月5日「教師の日」メッセージ

「京都市立学校・幼稚園PTAから日々子どもたちのために奮闘しているすべての先生方に向けた保護者からのエール」として、

令和5年10月5日、  
京都市PTA連絡協議会が、感謝のメッセージ  
「先生への感謝を込めて～10月5日『教師の日』に～」  
を市立学校・幼稚園に向けて発信。

#### (参考)

- ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が、1966年（昭和41年）10月5日に「教員の地位に関する勧告」が調印されたことを記念し、1994年（平成6年）に10月5日を「世界教師デー」に制定。
- 一般社団法人「教師の日」普及委員会が、10月5日を、教師という職業を社会全体で応援する機運を醸成し、教師への尊敬と感謝の心を育むために、「先生への日頃の感謝の気持ちを伝えること」を促す日として、「教師の日」の普及を目指し活動されている。

10月5日は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が制定した「教師の日」であることを、皆さんご存じでしょうか。私たちは、このような素晴らしい日が定められていることを最近知りました。今回、この日を迎えるにあたり、普段お世話になっている先生方に感謝の気持ちを伝えたいと思います。

先生方が、いつも温かく、子どもたちに寄り添い、少しでも子どもたちが毎日を楽しく過ごせるように、そして、これからの社会をたくましく生き抜くことができるように、ご尽力くださっていること、本当にありがとうございます。とりわけ、この間、子どもたちはコロナ禍の中、多くの我慢を強いられ、これまでの当たり前がそうではなくなりました。先生方は、ご自身の体調管理や日常生活もある中、子どもたち一人ひとりに気を配りながら、懸命に感染対策を施し、毎日の授業はもとより、修学旅行や運動会等の学校行事を実施してくださいました。子どもたちの学校生活が少しでも充実するように、最前線で奮闘していただき、感謝と尊敬の気持ちでいっぱいです。当たり前と思っていた子どもたちの学校生活が、先生方のおかげであることに改めて気づきました。

こうした中、今、学校の働き方改革が教育の喫緊の課題の一つに挙げられています。また、教師のなり手不足や教師を目指す方の減少も課題となっています。

子どもたちの未来をつくる尊い仕事に携わる教師の皆様は、いつの時代も子どもたちにとってかけがえのない存在です。

だからこそ、私たちPTAは、そんな先生方が、生き生きとした姿で子どもと向き合い、やりがいを持って働くことができるよう、学校や子どもたちに関わる全ての皆様と共に、先生方を支えていきたいと思っています。子どもの教育を担う当事者として、学校と私たちは車の両輪です。PTAとして、先生方を支えるために何ができるかを考え、子どもたちの未来のために、共に行動していきたいと思っています。

「教師の日」に際し、改めて、先生方への日頃の感謝をお伝えし、メッセージとします。

令和5年10月5日 京都市PTA連絡協議会

## 4 教員確保に向けた取組

### (1) 京都市立学校教員採用選考試験の志願者数（令和5年度実施）

- 令和6年度採用予定者数235名程度に対し、1,385名が出願され、272人が合格。倍率は約5.1倍となった。

（令和6年度教員採用選考試験結果）

校種	志願者	合格者	倍率
小学校	504人	123人	4.1倍
中学校	466人	68人	6.9倍
高等学校	160人	17人	9.4倍
総合支援学校	150人	49人	3.1倍
養護教諭	77人	12人	6.4倍
栄養教諭	28人	3人	9.3倍
合計	1,385人	272人	5.1倍

全国的に減少傾向が進む中、  
本市では5倍以上を維持

【参考（文部科学省調査）】

令和4年度公立学校教員採用選考試験の全体の競争率（採用倍率）は、3.7倍（平成3年度と同率で過去最低）

- 一方で、近年、年度途中での欠員が増加している。

- ・若い世代を中心とした教員の病休の増加
- ・小学校の育児短時間勤務者の増加  
（H27:17名 → R元：80名 → R4：132名）

等が要因として考えられる。

【小学校の育児短時間勤務取得】

2位を大きく引き離し、**政令市1位の割合**

（※政令市の数値が把握できているR2年度の段階で）

## 4 教員確保に向けた取組

### (2) 令和5年9月補正予算

#### ○「教職スタートパッケージ」の創設

教員免許状を取得しているが現在教職に就いていないといった、いわゆる潜在教員等が教職に就く際の不安を軽減するため「教職スタートパッケージ」を創設。

- ・いつでも・どこでも・誰でも視聴できる、教職に就くにあたっての説明動画の配信
- ・京都教師塾と連携した取組（講師登録のうえ、希望された方に対する特別講座の無料視聴、就業にあたっての相談の実施）
- ・任用後1週間程度は、校内での業務準備や授業補助等を担う期間とする「教職スタート業務期間」の設定

#### ○情報発信の大幅な強化

求人サイトや各種広告の活用、HPの新設等

#### ○校務支援員の追加配置

教務主任等の本来業務に関する事務作業等の負担軽減を行うことを目的として、校務支援員（教員免許不要）を大幅に追加配置（50校程度）。

#### ○正規教員の採用前倒し

今年度実施の教員採用選考試験の合格者のうち、若干名を令和6年4月1日より前倒して採用予定。

教員未経験大歓迎！教職スタートパッケージ始動！  
あなたも今日から先生に！  
京都市立学校・幼稚園  
講師募集中！

- 1 教職スタート業務期間の設定  
最初の1週間程度の期間は校内での準備や授業補助から
- 2 元教員への電話相談  
就業にあたっての不安や悩みなどを、管理職経験のある元教員へ相談が可能
- 3 特別講座の視聴  
いつでもオンラインで視聴可能！多くの教育実践を学習できます
- 4 説明動画  
未経験の方や教育現場から離れた方に向けた動画を配信

【常勤講師（フルタイム勤務）の場合】（令和5年4月1日時点）  
待遇：通勤手当・扶養手当・住居手当支給有り、各種社会保険、有給休暇有り、  
残業・勤務手当（8月・12月の年2回、最大年4.4月分）※条件に応じて支給  
給与：大学新卒者 月額 約238,800円【小・中学校の場合】※地補手当等含む、職別による加算あり  
その他：勤務にあたっては、教員免許状が必要です。※教員免許更新制は廃止されています！  
非常勤講師（パートタイム勤務）の任用もあります。

京都市教育委員会  
教職員人事課  
☎ 075-222-3779  
🔍 京都市教委 講師

## 4 教員確保に向けた取組

### (3) 教員採用選考試験の制度改革

#### ○大学3回生等 JUMP UP 特別選考

令和7年度中に卒業予定の**大学3回生等**が受験できる**特別選考**を創設。

令和7年度（令和6年度実施）京都市立学校教員採用選考試験の第1次試験の「一般・教職教養筆記試験」及び「専門筆記試験」を受験可能に。

- ⇒ ・ 「一般・教職教養筆記試験」合格者は、京都教師塾の受講料を全額免除。  
・ 不合格のとなった方にも、京都教師塾の有料コンテンツの一部を無償で公開。

#### ○大学・大学院推薦制度の変更

- ・ 「**成績優秀者推薦枠**」を新設し、推薦人数に2名を加算できることとする。
- ・ 中学校について、新たに「**国語**」の推薦を可能とする。
- ・ 高校について、「**情報**」・「**工業**」の推薦を、13年ぶりに復活する。



## 5 教員の魅力 働きがい



## 5 教員の魅力 働きがい

～現役教員の声～

○ 私は学生の頃から、絶対に素敵な先生になるんだという強い思いで勉強をしてきました。実際に教職に就いてから、その思いは変わっていないどころか、むしろ子どもたちとの関わりの中で、どんどん強くなってきていると感じています。

教職という仕事は、子どもたちと一緒に前を向いていく仕事だと思っています。共に学びながら共に成長できる、そんな素晴らしい仕事に、私は誇りを感じています。

朝、子どもたちが「おはよう」と笑顔でやってきて、「さようなら、また明日」と笑顔で帰ってくれる日常を過ごせるのが一番のやりがいです。

子どもたちの笑顔を守るために、明日の授業でつまづきそうなところを考えておいたり、子どもたちの表情にしっかり着目したり、困っているかもしれない子供たちの声を聞き逃さない、ということを常日頃心がけています。

そうした小さな積み重ねが、毎日の「また明日」の笑顔につながっていると思いますので、その笑顔を見ることができたときには、すごくやりがいを感じます。



## 5 教員の魅力 働きがい

～現役教員の声～

○大変なことや悩むこともありますが、子どもたちはそのしんどさを吹き飛ばすぐらいの喜びや感動を与えてくれます。教師は本当に素晴らしい職業です。

○「ひとりで叶えられる夢の数には限りがあるけど、学校の先生は、みんなの夢を叶える一部分になれるから、とってものしいし、幸せな職業だよ。」中学生の時に聞いた先生の一言が、教員を志すきっかけになりました。

○生徒たちの屈託のない笑顔と、真剣な眼差しは、私たち教員にとって多くの学ぶきっかけとなります。

○実際になってみると想像以上に悩むことは多いですが、日々子どもたちと接していて、毎日走ったり、ダンスしたり、大笑いしたり、私自身が楽しんで仕事していることを幸せに思っています。色んな先生方に助けてもらいながら、自分自身、日々学びながら仕事ができるということにも、教師の魅力を感じています。

○一人の生徒の将来が決まったときに、「何かの役に立てたんだ、この仕事ってすばらしいな」と思えた。生徒自身が自分の夢を見つけ、未来を切り開いていく。それを一番近くで見られること、それが私の喜びです。

## 5 教員の魅力 働きがい

～現役教員の声～

- 産休に入る時に、子どもたちと学年の先生が内緒で激励会の準備をしてくれました。今まで担任してきた3学年分の子どもたちの寄せ書きを子どもたちと保護者の方が集めてくれました。本当に嬉しくて、子どもたちと一緒に号泣しました。誰かを喜ばせたい、勇気づけたい、そんな優しく純粋な子どもたちに出会い、心温まる感動があるのは教員の仕事だからこそだと思います。

### <京都市教育委員会ホームページ及びYouTube 公式チャンネル等での情報発信>

**New 新しい動画を公開しました！**  
現職教諭へのインタビューや先生の1日のお仕事の紹介動画など、令和5年2月～3月に公開した動画です。

 <p>幼稚園の先生になるっ！</p>	 <p>小学校の先生になるっ！</p>
約5分	約6分
 <p>先生の1日に密着！</p>	 <p>中学校の先生になるっ！</p>
約5分（小学校の先生の1日に密着）	約5分30秒
	



⇒ 熱意ある一人一人の先生が輝ける  
職場づくりを推進